

## JIMA：一般社団法人日本輸入モーターサイクル協会にあって

業界の活性化とは何か・・・という事を考えた時に、先ず必要なのは何でしょう？

80年代、空前のブームと呼ばれたモーターサイクル業界は21世紀に入り、成熟期を迎えました。

大型免許の教習開始、高速道路の二人乗り解禁、ETCの普及など嬉しい要素も続々と出ました。

その一方で排ガス・騒音などの環境基準は年を追う毎に厳しくなり、また駐車違反取締りの強化など、私たちにとってはあまり有難くないものもあります。

しかし、厳しい規制に真正面から向き合いモーターサイクルに乗らない人達の生活を守っていく事も、広く世間に対しオートバイの正当性や利便性、交通手段やホビーとしてのモータースポーツの素晴らしさをアピールする為の“絶好のチャンス”ではないでしょうか？

あまりにも少なすぎる駐車場問題だけでなく、モーターサイクルの“健全な定着”を実現するためには、関係諸団体や国、そして自治体とも太い連携のパイプを維持して、モーターサイクルのインフラ整備と平行した地域活性化のお手伝いにも深く貢献して行かなくてはなりません。

また、私たちはユーザーの“安心・安全・良質・便利”を高次元で“楽しさ”と共に確保して行く一方で、健全なモーターサイクルユーザーの育成や啓蒙活動にも寄与して行く事も、軽視できない事業のひとつです。

素晴らしくも厳しい四季があり、狭い国土ではありながら、沿岸部や山間・丘陵地といった大自然の隅々まで発展した道路網を持つ日本は、オートバイに対し様々な性能を要求します。

また、生真面目で平均的に見識の高い国民性を持つ日本人モーターサイクルユーザーから得られる様々なインプレッションは、それを製作するメーカーにとって、大変貴重で有意義な開発ヒントが得られると思います。

つまり、海外のメーカーにとって、日本人ライダーが日本国内でモーターサイクルを利用するという事は、相当な価値があるという事でしょう。

そして私たちは、Country Quality Brand Qualityを踏まえながら、海外の文化をモーターサイクルという媒体を介して(日本の厳しい環境基準やルールを満たしながら)正しく日本に伝える為にも、私たちは持てる知識と結束力で、貢献していかなければなりません。

JIMA(日本輸入モーターサイクル協会)は、上記のような様々な案件に関して、小型二輪・軽二輪・原付一種二種、といったサイズ、オンロード・オフロードといったカテゴリー、化石燃料・電動、という技術的要素、また、メーカー・インポーター・販売会社・ユーザー、という様々な立場から、コンプライアンス・インフラ整備、などの事業展開をしながら、輸入モーターサイクル業界の健全なる発展と、社会への定着を目指して活動を続けて行く所存です。

JIMA 一般社団法人 日本輸入モーターサイクル協会

代表理事 村島政彦